



二階堂 雅彦 先生

略歴

1981年 東京歯科大学卒業
 1981～84年 同歯科麻酔学教室
 1994～97年 タフツ大学歯学部 歯周病学大学院
 (Postgraduate Program in Periodontology, Tufts University School of Dental Medicine)
 1997年 アメリカ歯周病専門医 (Certificate in Periodontology)
 2003年 アメリカ歯周病学ボード認定専門医
 (Diplomate, American Board of Periodontology)
 2006年～ 東京歯科大学水道橋病院 臨床教授
 2008年～ 東京医科歯科大学歯周病学分野 非常勤講師
 2015～17年 日本臨床歯周病学会 理事長

歯周治療，インプラント治療でのマウスリンスの役割を再考する

東京歯科大学水道橋病院／東京都開業
 二階堂 雅彦

いうまでもなく歯周治療のターゲットは細菌（プラーク）をいかに減らすかであり，その中での主体はブラッシングやSRPに代表されるメカニカルなプラーク・コントロールである。一方，抗菌成分を含有するマウスウォッシュに代表されるケミカル・プラークコントロールは，歯周治療，インプラント治療では使用できる多くの局面があるにもかかわらず，わが国ではこれまで過小評価されていたように思う。その理由の一つは欧米ではゴールド・スタンダードとして使用されているクロルヘキシジン（CHX）が口腔内では至適濃度での使用が許されていないこと，従来の過度のブラッシング信奉と呼ばれるものがいまだに根付いていることがあげられる。またその代償として抗生物質の多用を招き，耐性菌増加などの負の側面は看過できない事実である。

演者はアメリカ留学時代，歯学部のクリニックではフラップ根尖側移動術やシンプルなインプラント外科では抗生物質の投与は行わず，CHXと鎮痛剤の処方のみをおこなった。また初診時に重度歯周炎のケースでは，プラーク・コントロールの励行とともにCHXでの洗口を義務付け，SRPがスムーズに開始できるようにと積極的な使用をルーティンに行っていた。

しかしながら帰国後は，欧米と同等濃度でのCHXを使えない無力感や，代替品には十分なエビデンスがないことからその使用は限定してきた。しかし時が経て，それ以来のエビデンスの蓄積がみられ，われわれ歯周治療，インプラント治療に携わるものとしてその積極的使用を再考する時期に来ていると思う。特に臨床で克服しなくてはならないテーマであるインプラント周囲炎は，いまだに決め手になる治療法がなく，この疾患の予防，治療，メンテナンスにおけるマウスウォッシュ使用の意義は大きいと考える。

エッセンシャルオイル（リステリンTM）はマウスウォッシュとして長い歴史があるだけでなく，新しい製品の開発など絶えずに改良が加えられてきた。またその間に欧米，またわが国での査読（peer review）がある学術誌での評価が重ねられ，多くのエビデンスが蓄積してきた。また何よりCHXで見られる，歯，舌などの対するステイン，味覚障害，歯石沈着などの副作用がみられないのは特筆すべきことであろう。

本セミナーではマウスウォッシュ，特にリステリンの歯周治療，インプラント治療における積極的役割を，自院での経験を含め多方面から評価していきたいと思う。